



目 次

ごあいさつ	2
平成14年度第45回通常総会報告	3
「母校を訪ねる会」第22回目を開催	4
同窓会・クラブ・その他	10
支部活動	14
校友レポート	18
がんばり記	19
CAMPUS NEWS	20
校友短信	21
就職指導委員会からのお願い	23
平成15年度通常総会の通知	24
第23回母校を訪ねる会の案内	24



次世代工学技術研究センター [愛称：NEWCAT (ニューキャット)]

Nihon University College of Engineering Worldwide Research Center for Advanced Engineering & Technology



日本大学工学部長
小野 沢 元 久

2003年の新年を迎え、校友各位におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げ、平素の温かいご支援に対しまして心より感謝申し上げます。

今年日本大学専門部工科が郡山に移転し、丁度55年という節目の年にあたり、その真価が問われるときでもあります。

国際化・高度情報化がますます進展するなかで、日本の大学を取り巻く環境は、現状から更に大きく転換することが予想されます。一層流動的で複雑化した不透明な時代となり、より国際競争力の強化が求められる中で、国内では、少子高齢化が進行し、生産年齢人口が大幅に減少すると同時に、産業構造や雇用形態にも大きな変化が起こっています。

このような背景の中で、日本の大学の在り方に対して、大きな変革が求められています。国立大学では行政改革の流れの中で、設置形態そのものを見直し、「自律制」と「効率制」を原理とする法人化への移行措置である独立行政法人化政策や「第三者評価による競争の原理」を導入することが検討されています。新制大学発足以来、国の統制と保護のもとで整備増強されてきた国立大学にとって設置形態そのものの改革や規模の大幅な削減というのはかつてなかった事態であり、このことは私立大学にとっても対岸の火事として受けとめられない大きな問題であります。また、国外に目を向ければ、大学間で国境をこえて、学生の獲得競争が行なわれる一方で、時

ごあいさつ

間・空間を越えて、世界に教育プログラムを配信するバーチャル・ユニバーシティがグローバルなスケールで遠隔教育を展開しつつあることを実感せざるを得ません。これまで高度成長期を支えてきた日本の大学は一つの役割を終え、新たな機能を備えた教育機関としての役割を担うものへと変革することが期待されています。

このような社会の期待に応えるために、本学では教育基盤、研究基盤の整備を国の補助を受けながら積極的に進めております。研究面では、昨年度次世代工学技術研究センターが完成し、本年4月には環境保全・共生共同研究センターが竣工する予定です。ともに文部科学省の推進事業の一環として支援を受けた事業であります。これらの施設は次世代に通用する新技術を創出し、社会に還元する産学連携の拠点になるものと思っています。

更に、教育面では、昨年教授会で、教室棟の建設が承認されました。グローバル時代における情報通信網の高度化・広域化を背景に、学生はあらゆる国・地域の教育プログラムを享受することが可能となり、教育のグローバル化に対応した教育環境・システムの抜本的見直しが必要とされています。本学では、この教育棟の建設を契機にサイバーキャンパスを構築し、海外との学術交流、高大一貫教育、社会人のリフレッシュ教育等を積極的に進めていきたいと考えています。

校友の存在は、学生にとっても大学にとっても大きな財産であります。今後とも変わらぬご支援をお願いするとともに、校友会の益々の発展と校友の皆様のご健勝を祈念いたします。



校友会会長
加 藤 木 研

日本大学工学部校友会の皆様におかれましては、希望にみちた新しい年をお迎えになった事と存じます。私は平成14年4月の通常総会に於いて、会長の要職を勤めることになりました。私は昭和39年3月電気工学科第12回卒業であります。もとより浅学非力な私ではありますが、会長職を引受けた以上は全力をあげて任期をまっとうする考えであります。こんな私ではありますが、どうぞ校友の皆様、私を支援して下さる様お願い申し上げます。私の就任の挨拶とさせていただきます。今後共何か校友会への要望等ありましたら私の方へ御連絡下されば幸いです。

さて皆様も御存知の事と思いますが、平成14年度から日本大学校友会の組織が変りました。それは工学部校友会が変ったのではないのです。平成13年度までは、本部校友会は全面的に大学に頼っていたのですが、それでは

ごあいさつ

校友会の更なる発展は見込めないのではないかとので、平成14年度以降は日本大学の卒業生から会費を徴収して、その会費でもって校友会の運営を行う事が決ったのです。ちなみにこの方法は他大学の校友会運営と同じであります。そこで工学部校友会の皆様は年額八千円の会費を本部におさめていただく様お願い申し上げます。ここで誤解のない様に申しますが、会費を泊めないからといって工学部校友会の終身会員に变りはありません。しかしながら会費の徴収が少ないと本部校友会が立ちいきません。そこで工学部校友会の皆様におかれましては、是非日本大学に対する愛校心を発揮されまして、会員になっていただきたくお願い致します。現在の日本の経済状況は決して良いとはいえませんが、平成15年度は少しでも良い方向に進んで欲しいものと考えております。校友の皆様にも平成15年度が是非良い年であります様に、御祈念申し上げ、挨拶いたします。

平成14年度 第45回通常総会報告

平成14年4月20日(土)、午後2時より、日本大学工学部校内の50周年記念館(愛称:ハットNE)において第45回通常総会が開催された。

佐藤光正会長の開会の辞に始まり、議長に西川望氏(土14回卒)、議事録署名人に橋本寛氏(建10回卒)および石井和樹氏(土13回卒)、書記に八木宏純氏(工化14回卒)および盛武建二氏(土17回卒)が選出されて議事に入った。

村田事業部長から報告第1号・平成13年度会務報告、伊藤経理部長から承認第1号・平成13年度一般会計収支決算および承認第2号・平成13年度特別会計収支決算の報告があり、これに対して鈴木守会計監査から監査報告がなされた。さらに議案第1号から第3号の平成14年度の事業計画および一般会計並びに特別会計収支予算が両部長より提案され、各々に質疑討論の後、賛成多数で承認された。

続いて、本年度は役員改選の年に当たり、議案第4号として提案された新役員案について討議が行われ、新会長に加藤木研氏(電12回卒)以下19名の新役員が誕生した。詳細は、ホームページ(uncckoyu@minos.ocne.jp)を参照されたい。

総会終了後、恒例の懇親会が島方洗一日本大学副総長および小野沢工学学部長を始めとし、本部関係者、各学部校友会会長のご臨席を賜り、盛大に開催された。



平成13年度一般会計収支決算書

歳入		単位:円 △…減		
款項	種目	予算額	決算額	比較増減
会費	1 終身会費	8,500,000	8,650,000	150,000
	2 入会金	17,000,000	17,800,000	800,000
	計	25,500,000	26,450,000	950,000
繰越金	3 前年度繰越金	4,756,215	4,756,215	0
	計	4,756,215	4,756,215	0
雑入	4 預金利息	20,000	29,933	9,933
	5 名簿代金	60,000	132,000	72,000
	6 雑収入	273,785	350,000	76,215
	計	353,785	511,933	158,148
合 計		30,610,000	31,718,148	1,108,148

歳出		単位:円 △…減		
款項	種目	予算額	決算額	比較増減
事務費	1 給料手当	4,900,000	4,897,978	△2,022
	2 保険料	400,000	392,111	△7,889
	3 交通費	800,000	796,000	△4,000
	4 旅費	20,000	0	△20,000
	5 交際費	900,000	790,000	△110,000
	6 需用費	250,000	151,046	△98,954
	7 備品費	0	0	0
	8 印刷製本費	300,000	266,700	△33,300
	9 通信運搬費	600,000	424,127	△175,873
	10 修繕維持費	10,000	87,150	77,150
	11 分担費	500,000	500,000	0
	12 雑費	100,000	64,850	△35,150
事業費	計	8,780,000	8,369,962	△410,038
	13 組織対策費	1,600,000	1,540,520	△59,480
	14 会報発行費	6,000,000	5,525,120	△474,880
	15 会員管理費	1,800,000	2,588,485	788,485
	16 下宿対策費	10,000	9,712	△288
	17 式典費	3,100,000	2,522,010	△577,990
	18 母校訪問費	670,000	570,756	△99,244
	19 負担補助援助費	3,000,000	3,000,000	0
	20 新規事業費	300,000	255,446	△44,554
	21 電算化事業費	800,000	0	△800,000
会議費	計	17,280,000	16,012,049	△1,267,951
	22 総会費	1,300,000	1,098,254	△201,746
	23 役員会費	300,000	274,530	△25,470
	24 連絡協議会費	450,000	468,846	18,846
	25 旅費	1,800,000	2,034,170	234,170
繰出金	計	3,850,000	3,875,800	25,800
	26 職員退職給与積立金 特別会計繰出金	200,000	196,560	△3,440
積立金	計	200,000	196,560	△3,440
	27 積立金	0	0	0
予備費	28 予備費	500,000	0	△500,000
	計	500,000	0	△500,000
合 計		30,610,000	28,454,371	△2,155,629

歳入額 31,718,148円
歳出額 28,454,371円
差引残高 3,263,777円を翌年度へ繰り越しとする。

財産の状況(平成14年3月31日現在)

単位:円			
一般会計	引当財産	運用財産	合 計
3,263,777	6,023,605	18,300,000	27,587,382

平成13年度職員退職給与積立金特別会計決算書

歳入		単位:円 △…減		
款項	種目	予算額	決算額	比較増減
繰越金	1 前年度繰越金	5,737,980	5,737,980	0
	計	5,737,980	5,737,980	0
繰入金	2 一般会計より繰入金	200,000	196,560	△3,440
	計	200,000	196,560	△3,440
積立金	3 職員退職給与積立金	80,000	84,240	4,240
	計	80,000	84,240	4,240
雑入	4 雑収入	2,020	4,825	2,805
	計	2,020	4,825	2,805
合 計		6,020,000	6,023,605	3,605

歳出		単位:円 △…減		
款項	種目	予算額	決算額	比較増減
引当金	1 職員退職引当金	6,020,000	0	6,020,000
	計	6,020,000	0	6,020,000
合 計		6,020,000	0	6,020,000

歳入額 6,023,605円
歳出額 0円
差引残高 6,023,605円を翌年度へ繰り越しとする。

「母校を訪ねる会」第22回目を開催

第22回母校を訪ねる会が、平成14年10月13日(日)に創立50周年記念館（ハットNE）で盛大に開催されました。但し場所は同じ記念館でも学生食堂に場所を移して開催されました。何故場所を変えたかと言いますと、昨年までは立席で行なわれていたのですが、お年を召された方も出席されていたので本年は人数分の椅子を用意して着席にて行なわれました。しかしこれには賛否両論がありました。何故なら一度着席してしまうと参加者の動きがにぶく、せっかく多勢の方が参加したのにもかかわらず他学科との交流、及び先生方との交流が少ないと云う結果が表われました。従ってこの事は今後の課題であると思われまふ。しかし卒業後40年の方々には着席は好評でした。さて卒業後、40年、30年、20年の方々をお呼びしての「訪ねる会」を開催した訳ですが、大体の学科（クラス）は前日に同級会を開催した様です。校友会の方には7つの同級会から案内が届いておりました。残念ながら工業化学科の案内は一つもありませんでした。次回の「訪ねる会」では是非クラス会を開催して欲しいと願っ

ております。そんな中で今年は大きな変化がありました。それは卒業後30年の建築学科、土木工学科及び機械工学科の皆様が合同でクラス会を開催した事です。校友会も招待されて出席させていただきましたが、大勢で行なうと云う事は非常に盛り上がり、楽しい思い出話が沢山話されました。学科毎のクラス会も決して悪い事ではないのですが、合同で盛大に行うことも一つの例だと感じました。是非次年度以降に計画されている卒業学科は参考になさって下さい。又今回は非常にうれしい話がありました。と申しますのは電気10回卒で40年目の参加を非常に楽しみにしていた方が、病気で亡くなられた為に、その奥様はるばる参加なされました。そして電気10回卒の方々と色々昔話に花を咲かせたと云う事です。これには役員一同感激致しまして学部長及び事務局長から奥様に花を贈らせていただきました。来年度も平成15年10月に第23回の「訪ねる会」を開催致しますので多数の方の参加をお待ち申し上げます。



第22回 母校を訪ねる会（第10回卒業生）

平成14年10月13日



第22回 母校を訪ねる会 (第20回卒業生) 平成14年10月13日



第22回 母校を訪ねる会 (第30回卒業生) 平成14年10月13日

「母校を訪ねる会」に出席して

橋本 安弘（土木10回卒）

平成14年10月13日「母校を訪ねる会」に参加しました。当日は雲一つ無い秋晴れ、秀峰安達太良山さらに会津磐梯山がくっきりと望まれ、我々を歓迎するかのような申し分のない日和りとなりました。

本館前中庭での記念撮影、そして懇親会が開催され小野沢工学部長並びに加藤木校友会長のご挨拶があり、高松工学部事務局長の乾杯ご発声により挙行されました。

席上、校友代表の一人としてスピーチを仰せつかり、大変光栄でありますので小生話しをさせて頂きました。その中で「我々、昭和37年の土木工学科卒業生はまさに日本が高度経済成長期の真っ只中にあり、がむしゃらに働いて参りました。その結果、今日の日本があるのであります……」と胸をはって申し上げました。

前日12日は、この機会に是非同級会“十桜会”を開催しようと旧友達の要望で、駅前のチサンホテル郡山で開催致しました。遠路はるばる、遠くは鹿児島よりなど大勢の級友が集まり24名参加の“十桜会”となりました。恩師杉内先生と小林先生もご臨席賜り、さらに加藤木校友会長にもご出席頂き盛会裏に開催できました。



前回の“十桜会”は、平成4年10月蔵王でしたので40年ぶりの同級会で非常に懐かしく皆さんそれぞれの近況報告に熱心に耳を傾けておりました。次回は、東京でお会いすることで中締めとし二次会へと繰り出しました。

小生、現在はゼネコンに籍を置きアゲンストの社会環境に微力ながら立ち向っているつもりです。時代は以前とは大変な様変わりではありますが、新しい変化に対応したシビルエンジニアとして努力したいと思っています。

土木は永遠に必要であり、その社会環境に合った技術が要求されます。これまでの経験をふまえ、今後の我々の生き方に生かそうではありませんか!!

「土木は不滅です!!」

（鉄建建設(株)東北支店）

「母校を訪ねる会」に出席して — 谷川正巳先生の特別講義を受講する —

澁谷 昭（建築10回卒）



私たち建築学科第10回卒業生の40年ぶりの同窓会が平成14年10月12日に磐梯熱海温泉で行われ、北は北海道から南は沖縄まで夫婦参加2組を含めて17名が、退官された小栗先生を囲んで懐かしい盃を傾けました。

翌日13日は秋晴れの中、東山温泉で鉄道研究会OB会に出席された恩師谷川正巳先生と列車で合流し、郡山駅前から日大行きスクールバスに乗り込みアカシヤ林の正門に到着、あまりのキャンパスの変わり様にびっくり。40年前は旧日本海軍郡山航空隊の黒々した木造兵舎の並ぶ中で、コンクリート校舎は1棟のみであった。研究室のダルマ石炭ストーブを囲みながら、のんびりと明日の建築を夢見たものです。

谷川正巳先生は私たちが4年生の春着任され、やっと建築意匠の先生が郡山に常駐されたことを友達と喜び合ったものでした。先生からは設計製図Ⅲと卒論と卒業設計のご指導を受けましたが「フランク・ロイド・ライト」の講義を聴かずして谷川研第1回卒業生として世に飛び出してしまいました。そこで「母校を訪ねる会」終了後、急きょ図書館棟の特別閲覧室にて谷川正巳先生の特別講義「ライトと日本—帝国ホテル耐震神話の崩壊」を受講させていただき、皆40年前の学生時代に戻り大変感動した時間でありました。又、さらにライトの未発表作品「井上子爵邸」の設計原図も拝見することができ、私たち建築10回生にとって最高の一日でありました。最後に、このようなすばらしい感動を与えていただいた「母校を訪ねる会」にご招待下さいました工学部・校友会の皆様へ厚く御礼申し上げます。（渋谷昭設計工房 代表取締役）

「母校を訪ねる会」に出席して

坂手 彰（機械10回卒）

このたび「第22回母校を訪ねる会」に、第10回卒業生も招待を受け、機械工学科からは9名が参加しました。

卒業後、これまでに母校を訪ねた人も少なくはありませんが、還暦と定年を過ぎての母校訪問は、それぞれにまた違った感慨をもたらしました。

母校の発展と変貌に、40年の歳月を一日で埋め戻すことは至難でした。一つ一つ記憶を辿りながらキャンパス内を散策、在学時の記憶に残る面影は、もう殆ど見当りませんでしたが、現在の2号館と阿武隈川河畔から見る風景が、当時の記憶を呼び戻してくれました。

懇親会では、「社会との接点で、学生たち自身が課題を見つけて学究に勤しむ教育を」との小野沢工学部長の力強い挨拶に、母校の将来を感じ取る事が出来ました。

また、北桜祭での生き活きた後輩達の姿が、母校の発展の何よりの証でした。

前夜には、菅野先生、加藤木校友会長のご同席を得て同期会を開催し、時間の経つのを忘れて、お互いの近況と思い出話を交わすこともできました。

互いの健康と再会を誓いながら、後髪を引かれる思いで母校を後にした一日でした。

感慨に耽りながらふと目に触れて、そっとポケットに忍ばせて持帰った小石が、今もこの日の思い出を留めています。



「母校を訪ねる会」にて「40年ぶりの再会」

片石 行（電気10回卒）

12日(土)先見隊として、在京の友人と郡山駅前で落合い、荒池の近くに宿をとった。駅舎の変わり様には驚いたがキャンパスの変わり様は正に「浦島太郎」の感であった。



二人で会場を確認し、在学中の思い出の校舎と重ねようとしたが40年のギャップはそうさせてくれなかった。13日(日)皆様と会える本番日である。旧友の待つ「記念館」に向け車をとばす、早く着きすぎた！「北心寮」の碑を求め、やっと発見！シャッターを切る。学部長他皆様の挨拶の後は昔話に花が咲く、しかし電気科に紅一点の参加は実に感無量であった。故「矢吹参男」氏のイキ子夫人である。終宴後、研修会館にて全員集合は当然の成り行きである。又驚きがあった、故矢吹氏のために学部長、事務局長、校友会長他の皆様が花束持参で多忙の中、ご来訪いただいた事である。我々一同、心から感謝の一言のみでした。「ありがとうございました。」一同を代表し、心からお礼申し上げます。さて、この後は、延延と話に花！60才過ぎは枯木に花？いずれにせよ40年ぶりのギャップは一気に皆無の感でした。東北弁でイガッタ、イガッタ!!です。終りに校友会へのお願いです。40回を過ぎたら5年ごとはいかが？生存率を気にしている友人多数と見ました。るる書かせてもらいましたが、最後に一言！大声で!!「なつかしの母校は」、「実家の心」と思います。皆様お元気で！

クラス会と母校を訪ねて

大内 孝夫（建築20回卒）

清々しい秋晴れの日、30年ぶりの人・10年ぶりの友人、懐かしい顔が次々と…私たちの一部は卒業以来、毎年クラス会を重ねているので参加者の半分は見慣れた面々でした。（このクラス会はアカシア会と称して12月の第1土曜日に開会）私たちの年代は団魂の世代の最後にあたり、良きにつけ悪きにつけ、時代の大きな変換に遭遇して来ました。受験戦争・大学闘争・オイルショック・バブル経済・そしてその反動としてのデフレとリスト

う。鍛えられたものです。この貴重な経験を子供たちにどう伝えようか？仕事がない！まだまだ金のかかることが…と真面目な会話が延々と3次会まで続きました。

“53歳にも成ってしまった・でもそうは思いたくない・俺はまだ若い”でも周りから観ると好いお父さんに成ってしまいました。そう言うお前も髪が真白！比して女性達は皆若いネ。どうしてかな？ストレスが無いのか失礼！

翌日、久しぶりのキャンパス…30年前は木造建物が残っていたり大学としての風格が感じられず、ただ必要な部屋が有るだけでした。しかし不便とは思わずひたすら郡山の街で友達と勉強に励んだ様な気がします。学園祭での建築研究会で展示した“キャンパスの変遷”を観て時間の流れを強く感じさせられました。残念なことは母校を訪ねる会懇親会会場に恩師達の姿が見えなかったことです。谷川先生は他の会合の都合でたまたま合流されましたが、対象卒業生の恩師先生方の参加をも考慮していただければもっと素晴らしい訪ねる会に成るものと思います。幹事の皆さん有難うございました。

(株GNE設計代表)



母校を訪ねて

朝 川 春 馬 (機械20回卒)

そこにありました。30年という歳月はキャンパス内の建物を大きく変化させ、当時は新設であった「実験棟」もずいぶん年をとったものだと感じました。各種記念館等多くの建物が新設されキャンパスも大きく変わり、又当日開催していた「北桜祭」を見て若い学生諸君はのびのびと学生生活をエンジョイしているようで30年前の大学紛争時の事が思い出され羨ましくもありました。

記念撮影の後、「ハットNE」での懇親会では機械工学科第20回卒業生として私を含め14名が出席しました

が、皆さんそれぞれの分野で頑張っているようで私自身もエネルギーをもらった感じがします。最初は名前と顔が一致しませんでした。時間とともに昔の面影がよみがえり、昔のことが走馬灯のように思い出され、時間の経つのも忘れて話に夢中になってしまいました。又小野沢工学部長も昔と変わらぬお元氣な語り口で大学のあり方について熱弁をふるわれていました。10月13日、卒業後30年ぶりに母校を訪ねました。仕事の関係でも福島や郡山に来ることが無く、又前回の卒業後20年の「母校を訪ねる会」も所用から欠席しておりまして前々から機会がありましたら訪問したいと考えておりました。

前日12日は、春夏には当時所属していた「ゴルフ同好会」での合宿、又冬にはスキーを楽しんだ猪苗代湖周辺を家族で旅行し、郡山市内を通りましたが30年という歳月は街並みをこうも変えてしまうのかと思いましたが阿武隈川の流れは昔のまま変わることなく流れておりました。

少し早めに大学に着き「ハットNE」で受付をしていますと同級の大野君(荏原製作所勤務)、安藤君(アイシン精機勤務)と会い、お互いに頭は白いものが多くなりましたが、30年前にタイムスリップしたようで30年前のそのままの笑顔がした。次の10年後に元気に再会することを約束し郡山を後にしました。(三菱重工業株)



卒業して、はや30年

中 山 健 一 (電気20回卒)

陸奥の地、郡山！雄大な磐梯山、そして清き阿武隈川は、なんと大きな夢と希望を与えてくれたのだろう。青春のエネルギー溢れる時を過した「僕の街郡山」の歌を鮮明に思い出す。夕日が沈めば磐梯山もため息つくのか歩街風…。卒業30年後の校友、時は流れ容姿は変わろうとも、一言話した瞬間に若き世代に戻ってしまう。夕方ホテルでのクラス会で友と語らい、翌朝思い出の下宿先にお礼をと廻ると、朝からビールが出て懐かし話に花

が咲く。

時代は変わったの一言ですまされない驚きを感じた。アパートが多く、下宿生が少なくなっただけで、同じ下宿の学生同士が顔も名前も知らない。各自の部屋にお膳を持ってゆき一人で食べるとか？我々の下宿生活は、先輩も後輩全て知っていた。食事誰が早く何が好きかまで。30年経過しても会いたいと思うのは下宿からの繋がりである。今日の学生が卒業後郡山を愛し、友達との語らいの場を求めて訪れてくれるのだろうか。下宿のおばさんも嘆いていたのが残念でならない。

寂しさ感じ学び舎を訪ねると、北桜祭で大変賑わっていた。その華やかさは以前には無かったのでは。少なかった女子学生も今は数百人在籍とのことで活気に溢れていた。そこに安堵の気持ちで年度別記念写真撮影に参加し、式典会場へと。校友と語らいそして再会を約束し、学園の緑と若さで胸を膨らませ次回の希望が出来た。

「母校を訪ねる会」を計画・実行して戴いている方々に深く感謝致します。(リードエンジニアリング株式会社代表取締役)



「母校を訪ねる会」に出席して

設 楽 裕 (土木30回卒)

同級会は、10月12日(土)午後6時から郡山ビューホテルアネックスで開催された。出席者は、300人中42人であり、正直言って、学生時代でも全ての人を知っていたわけではないので、皆が懐かしい人ばかりとは言いがたいが、だいぶ歳を重ねたように見える人、あまり変わっていない人様々であった。お世話になった先生も5人来ていただいて、当時のことや近況報告などで大変盛り上った一時であった。

母校を訪ねる会は、10月13日(日)午前10時から開催された。受付場所である62号館(愛称ハットNE)はどこかなという思いで訪ねると元テニスコートがあったところ

に立派な建物があった。中には、学生食堂、本屋、購買部等が入っており、体育館の1階にあった学生食堂は、既になく現在は、北桜祭の事務局になっていた。他には、本館が新しくなり、また、情報工学科棟、次世代工学技術センターが新設されており、正門付近の景色が一変していた。懇親会では学内や個人の昔と変わったところや変わってないところを見つけたりして親交を益々深めた。最後に、校歌を斉唱し日大のまとまりを感じて終了した。

今回この会に参加して、改めて卒業後20年という歳月が経ったと言う事を実感し当時を振り返る事ができ、またこれからの生活に新たなエネルギーを持たせてもらえた気がした。これからまた10年後が楽しみである。

(高崎市下水道局)



『同級会と母校を訪ねて』

小 淵 勉 (電気30回卒)

第30回卒業生の20年ぶりの同級会がビューホテルアネックスで行われた。会場受付で顔を合わせると、不思議と笑みがこぼれ良き時代に戻るのに、時間を必要としなかった。一方街の変遷ぶりは大きく記憶が蘇るまで時間がかかった。今回集まれたのは、北は秋田、東は東京、遠くは、韓国からこの日に業務連絡日を設定した勇者を含め総勢19人であった。やや少ない感はあるが、我々の年代が置かれている立場を考えるとやむを得ないと思われる。校友会から伊藤副会長をお迎えし、楽しい宴が始まった。近況を交えた自己紹介が進むにつれ、学生時代の懐かしい思い出が蘇り、アルコールも手伝い気持ちは20年前にすっかり戻っていた。二次会は、本学卒の先輩の店で、校歌・寮歌を大合唱。最後にオーナー夫妻が作詞・作曲した「好きです、郡山」を生で聞かせていただき一同感激！楽しい一夜は終了した。翌日の「母校を訪ねる会」においては、記念撮影後、小野沢工学部長の挨拶

拶に続き懇親会が開かれた。母校の変容に驚嘆し、10年後の再会を楽しみに郡山を後にした。電気工学科30回卒の皆様！次回は是非参加を。

最後に、今回ご尽力された校友会そして幹事の皆様に厚く御礼申し上げます。
(東電工業㈱)



同級会・クラブ・その他

土木4回卒同期会

佐藤利紀(土木4回卒)



平成11年10月に4回目の同期会が磐梯熱海温泉で行なわれた際に次回は3年後に関東方で開催してはとの合議がなされ、今般千葉県君津市在住の鈴木昭七さんが幹事役となられて、平成14年11月10～12日の2泊3日の日程で、今般の参加者は急遽用務のため不参加が2名(鈴木淳・桑名潔)、佐藤利紀・矢吹弘・東嶋昭利・三瓶泰・松田光司・安藤惣吉・鈴木昭七さんの7名の参加で第5回目の同期会開催となり、幹事役のご手配で研修旅行として、新日鉄君津製作所を視察研修することが出来て、大変に有意義に感銘をいたしてまいりました。

又、東京湾アクアラインの「海ほたる」を見学し、懇親会では共に学生時代に帰り、旧兵舎での授業状況と通学時の事柄が次から次と話しが進み、今年は古希になることも忘れて、青春時代での気持で謳歌をし、応援団長された三瓶さんの音頭で校歌を全員で合唱をしました。元気な内に又再会をしたいとのことで、次回は東北方で開催してはとなりましたので、今回参加されませんで

した方々にも、是非参加して下さい。

尚、今年までに死亡された三輪和夫さん、黒澤幸悦さんのご冥福をお祈りいたします。

最後に今回の段取りから宿泊所の手配、新日鉄の折衝かたにご尽力された幹事役の鈴木昭七さんに心から感謝を申し上げます。

*写真は新日鉄君津製作所事務所前で作業服とヘルメット姿で撮影しました。

機械第11回卒生「はぐるま会」

—秋の京都に集う—

小林弘幸(機械11回卒)

今年の秋に開催される「母校を訪ねる会」に先立って、平成14年11月10日と11日に機械工学科卒業の同窓会「はぐるま会」を京都で開催致しました。

初めての関西での開催でしたが、北は釧路から南は宮崎まで、初めて試みたご夫妻参加に5組が賛同して計37名の参加となりました。

初日の午後は半数余りの希望者が参加した東映太秦映画村見学の後、京都嵐山の渡月橋に近い「らんざん」に集まった同窓会。皆、胸に名札を付けて久しぶりに会った一同が名簿順に卒業以来の履歴や近況報告など、熟年を迎えての子供や孫の話、またそれぞれの生き甲斐や友の生き方に聞き入り、これからの自分の人生設計の参考にしているかのようでした。最後に、校歌・若きエンジニアを皆で合唱して閉会。その後の二次会では、カラオケで友の歌声にも聞きほれながら肩を組んで歌い、心地良い眠りにつきました。

二日目は、トロッコ列車と保津川下りで紅葉を楽しみ、午後は天竜寺、竹林、常寂光寺と巡り、大河内山荘で抹茶を頂きながら一服、油絵を見るような古都京都の紅葉を参加者に堪能して頂きました。

そして、今秋「母校を訪ねる会」での再会を約して、それぞれの帰路につきました。

後日、会計報告、記念の写真と共に多量のデジカメ写真データをCD-ROMで参加者に送付致しました。



管弦楽部OB・OG会第3回総会開催 — 建設的な意見続出、盛り多い会となった —

管弦楽部OB会広報担当 桃井 忠 男 (電気12回卒)

今年で3回目を数えた総会は、8月3日(土)午後4時からニュートーキョースキヤ橋本店9階「LASTELLA」に19名が集まり、ファミリーな雰囲気の中で進められた。

千秋会長は「厳しい社会情勢の中で皆さんが参加できたことは嬉しく思う。今後も音楽の情熱の火を燃やし続けたい。今年は住所が判明した132名に案内を送りましたが、返信葉書を投函していない方がいたことは残念だ。」心意気と辛口のご挨拶をした。総会では平成13年度の活動と会計の報告をし、満場一致で了承された。運営委員の任期満了に伴う会長、総務、企画、会計広報担当等8名の再任と1名の辞任並びに北海道、中部、首都圏担当3名の増員も同意を得、早速来年度の活動に取りかかった。

懇親会では、仲間の演奏を楽しみながらテーブル一杯に並んだオードブルや和風料理、デザートとドリンクなどを口にして会話が弾んだ。

恒例になった合奏は、羽鳥勝美(建築13回卒)運営委員の指揮で(1)モーツァルトの「ディヴェルティメント」ニ長調KV136(2)日本の四季より①海②荒城の月③雪の心

にしみる4曲を演奏した。

今年は飯沼孝彦君(電気13回卒)、森和子さん(旧姓—高津、建築17回卒)のフルートが加わって音色の艶が一段と増しただけでなく、千秋会長はチェロの独奏を披露し、日頃ボランティア演奏をしている曾木新六さん(機械11回卒)のチェロ、清水さんのバイオリン、高堀さんのピアノによる3名の即興三重奏演奏など、演目も多彩になり参加者に感銘を与えてくれた。

電気会館のビヤホールで行なわれた二次会でも、参加者の多くから来年の総会に向けた具体的な取り組みの披露や5年目の記念誌作りの奉仕の申し出があった。仲間の活気ある取り組みの一つとして、中部担当堀井昭良君(機械12回卒)は総会の雰囲気伝える広報14号をビジュアル仕立てで作ってくれて11月中旬に会員宅に郵送した。またその後の運営委員会で「来年は現役との交流を目指して北桜祭の時期に郡山で開く」方針が固まったのを受け、準備委員は行動を開始した。

今回参加できなかった仲間も是非、来年は母校の訪問を兼ねて参加してほしい。



“ゴルフ部” 創部40周年を 迎えるにあたり

ゴルフ部OB会事務局長 鈴木 隆 治 (電気35回卒)

我々ゴルフ部OB会は、毎年秋郡山近辺にてコンペを開催しております。

コンペには、OBと現役が多数参加し近況を報告しあうなど交流、コンペを通して親睦を図っております。

そんな中、今年は40周年を迎えますので例年遠距離のためなかなか参加頂けないOBの方々にも是非参加頂きたく、休暇の取りやすいゴールデンウィークの時期を設定しました。

来る平成15年春、母校のある郡山にて“工学部ゴルフ部創部40周年記念コンペ”と“記念式典”を開催する運

びとなりました。

ついては、40周年記念コンペを盛大に開催致したいと思っておりますので先輩・同期・後輩それぞれ連絡を取り合い大勢のご参加を期待致しております。

また記念コンペですので、ご家族ご友人もお誘い合せのうえみんなでこの喜びを分かち合ひましょう。

最後に、母校工学部の益々のご発展と校友の皆様のご健勝ご活躍を心よりご祈念申し上げます。

なお、当クラブのホームページも作成致しておりますのでご覧ください。
<http://nichidai-golf.desu.jp/>

工学部ゴルフ部創部40周年記念コンペ

開催予定日程…平成15年春 ゴールデンウィーク
開催予定会場…宇津峰カントリークラブ
※OB各位に後日案内を差し上げます。



吹奏楽部OB・OG会を 北桜祭に開催して

吹奏楽部OB・OG会事務局庶務 飯田 厚(建築32回卒)

日本大学工学部吹奏楽部OB・OG会を母校の学部祭である「北桜祭」に合わせ、平成14年10月13日(日)に開催しました。午後1時からのOB会では全国各地から約40名のOB・OGの出席を得、現役部員を交え自己紹介や練習演奏をし、午後4時より北桜祭のメインステージにて現役との合同演奏会を行いました。合同演奏会ではOB・OGには懐かしい「マイ・ウェイ」も演奏し大きな拍手を頂きました。アンコールも飛び出し少々慌てましたが、日本大学校歌を演奏し更なる拍手を頂きました。合同演奏会は大成功と相成り、観客の皆さんも大いに喜んで頂きました。

午後6時より「さくら会館」にて吹奏楽部顧問兼OB会会長であり土木工学科教授である原忠勝先生、機械工学科教授の小川清先生も出席されて懇親会を行いました。

た。まず、原先生のあいさつを頂き続いて濱口輝夫先輩(土18)の音頭で乾杯、祝宴となりました。各同世代の思い出話や昔の吹奏楽部の様子、先輩や後輩の方々の近況など酔いがまわるにつれ楽しい宴となりました。

途中で、現役部員の飛び入りもあり、今の吹奏楽部(部員数30名)の話などで大いに盛り上がりました。また懇親会にのみ来られた方々の自己紹介やOB会会計の引継ぎ等もありました。最後に新家勉君(建31)のエールで校歌斉唱をし、館隆司先輩(土19)の一本締めで大団円となりました。

今回の開催に当り、吹奏楽部OB・OGの方でお知らせの案内が届かなかった方がいらっしやると思いますが、ご容赦の程お願い申し上げます。なお、OB会会員名簿を順次、作成・更新しておりますので、下記にご連絡いただければ次回のOB会にはご案内できると思います。また、今回のOB会の様子をCD2枚組に収めました。希望者には有料(¥1000)にて配布いたしております。

とにかく、楽しく懐かしいあつという間の1日となりました。次回(4年後?)は、さらに一人でも多く参加して頂けるようなOB・OG会を開催したいと思っております。最後になりましたが、この度のOB・OG会開催に当り、北桜祭実行委員会ならびに校友会事務局には大変お世話になりました。心より厚く御礼申し上げます。

(いわせ構造設計室(自営))



「金木犀」植樹を記念して

北心会会長 飯島 亮(建築10回卒)

今年六月二十二日に銀座の日航ホテルに於て、北心会が開催されました。その席で石島秀雄会長が退任され、私が新会長に選ばれました。

小野沢学部長も出席されましたが、校内に北心寮の思い出に記念になる樹を贈呈したいとの話があり学部長の了解を頂きました。詳細については事務局一任となり、中島康之、八木宏純両氏の努力にて準備がととのいました。植樹は十月十二日に決定しましたが、この日は私が建築科十回卒でして、卒業四十年目に当たりますので同期会として「母校を訪ねる会」を開催する日の前日となりました。

私は、埼玉県越谷市に生活しておりますので東北自動車道を車で行く事にしました。越前勉君も同乗する事になり、寮生活の思い出話にはずみ、三時間で郡山インターに到着。大学までの道路に少々手間取りましたが、時間通りに俊英寮玄関前に行きました。

小野沢学部長、高松事務局長、手塚校友会副会長との挨拶をすませ、寮の前にキンモクセイの植樹と記念樹名板を設置いたしました。「北心寮北心会」と記してあり、全員で記念撮影し、学部長室にて食事を御馳走になりました。楽しいひと時でした。

私が寮生活をしていた時代の校舎はほとんど無く立派な大学に変わってありました。同期生との連絡も取れず、そのまま帰ることになりましたが、中島君が同乗すると、「先輩、折角だからチャンパーに行ってみないか」と言われ、店は元の場所とちょっと違っていましたが、チャンパーとの四十年ぶりにご対面。

昔の話が次々に出ました。三人共四十年前の寮生にもどり、涙が出たり、笑ったりと、とても楽しい時間でした。運転手が帰りの路を順調に走りましたので、二時間少々で越谷に着きました。三人共すぐ飲んでいましたが、反省会をやろうと私の家の近くの店にて日本酒をぐいぐい。いくら話をしていてもつきる事なく夜中一時に解散。楽しい楽しい一日でした。



「三朋寮関係者同窓会」

内 藤 和（機械12回卒）



平成14年11月、第七回「三朋寮関係者」の同窓会を郡山の磐梯熱海温泉「栄楽館」で開催しました。

「三朋寮」は、昭和34年に栄楽館の親父さんが日大の学生に勉学の為に良い環境を提供しようと始めた寮です。十年近く存在していたと思います。今は、寮は残念ながら跡形もありません。温泉付きの、時には混浴有りの我々学生には恵まれた環境の「寮」でした。寮の生活は梁山泊もかくやと思われるもので、親父さんの目論見とは若干異なったかな…と後年反省したことです。近年、パラダイスのような寮で同じ釜の飯を食って学生時代を過ごした連中が年一度、場所を変えては同窓会を開いています。そして、たまには懐かしい磐梯熱海に戻って来ます。栄楽館もお世話になった親父さんの子息達が家業を継ぎ一大グループを成して盛業中で、菅野社長が日大工学部OBなのも嬉しいことです。毎回、一堂に会して一杯やって学生時代の昔話を花を咲かせて腹を抱えて笑って…そして解散の会ですが、考えて見ると今の世は《腹から笑う》という機会はそんなに無いと思います。学生時代の寮仲間、和気藹々の同窓会三朋寮！この会合が楽しくて私も毎回参加しています。現在、同窓会として把握している人数は16名程度ですが、三朋寮関係者はこの倍以上の人数になると思います。この記事を見て、参加してみようと思われた関係者は私迄ご連絡下さい。

支 部 活 動

『桜の仲間』戻れ! 来たれ! 北海道へ

北海道支部長 岡 本 繁 美 (土木16回卒)

遠く北海道より、お便りします。

北海道支部では、毎年1回本部郡山より来賓をお迎えし、総会及び懇親会を賑やかに、先輩は先輩らしく後輩は後輩らしく、共に仲良く、昔の郡山を懐かしみつつ、先輩は先輩らしく後輩は後輩らしく、共に仲良く、昔の郡山を懐かしみつつ、最近の郡山を語り、また仕事の話をして『桜の仲間』の和を深めています。

今回の総会及び懇親会は、節目の30回に成ります。そこで、平成14年度卒業生を懇親会費無料招待とすることが役員会及び幹事会で承認されました。抽選会も有ります。特賞は郡山往復ペア招待×2組等ははずれの無い抽選会です。

当支部は、北海道に在住する、日本大学工学部の卒業生によって組織され、卒業して道内に戻りますと登録されます。尚入会金、年会費は、有りません。

めでたく卒業され、北海道に戻り、是非出席してください。

尚、当支部は、道内出身者とはかぎりません、卒業して最初からでも途中からでも来道して定住した同窓生を大歓迎します。

定住先(連絡先)が決まりましたら連絡を

〒005-8585 札幌市南区真駒内本町1丁目1番1号

岡本興業株式会社内

日本大学工学部校友会

北海道支部事務局(担当 平田)

Tel. 011-841-1435

Fax. 011-812-8223

後日、出欠の確認を兼ね案内を送ります。

昨年、北海道支部の下部組織として、八地域に分け支部を発足しました。身近な『桜の仲間』の和をめざし、

北海道支部開設30周年記念 総会及び懇親会

日 時:平成15年4月18日(金)18:00

会 場:札幌ロイヤルホテル

住 所:札幌市中央区南7条東1丁目

Tel. 011-511-2121

手はじめに帯広で「ミニ同窓会in道東」を行いました。支部から役員、各地区支会長、各科幹事も出席し、和やかな会となりました。

北陸支部活動報告

北陸支部長 鈴 木 隆 (建築14回卒)

日本経済不況真只中ですが、校友の皆様におかれましては益々に御活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、第二回定時総会は去る7月20日に新潟駅前「ホテルサンルート新潟」にて開催しました。当日は、真夏の日差し照りつける猛暑にも関わらず本部から加藤木会長にもお運びいただき、約40名出席のなか、事業・会計報告など各議案全て可決、無事終了しました。又、質疑では日大本部校友会と工学部校友会の位置づけ等について、加藤木会長から本年度新たにスタートした「会費等の関わり」についての細かな御説明をいただきました。総会終了後の懇親会では和気藹々とした雰囲気の中で懇親を深め、校歌・日大節など昔を思い出しながら斉唱し再会を約束して解散しました。

本年度の主な活動内容は、本部校友会・工科系(工・理工・生産工・薬)支部長会・工学部校友会総会、父母会参加等で、各学部・支部の活動状況から多くを学びました。又、秋には初の懇親ゴルフコンペを企画したところ、北海道、九州、東海支部からの特別参加もあり、精鋭24名が日頃鍛えた技を競いあい楽しい一日を過ごしました。優勝は田中宣男さん(建築12回卒)で支部長杯と豪華賞品を総ナメにしました。

創立3年目でヨチヨチ歩きの支部ですが、本部をはじめ先輩支部各位の御指導を賜わりながら、会員の期待に応えられる魅力ある会運営を目指す所存ですので、何卒今後ともよろしく御願い致します。(株福田組勤務)



関東支部活動報告

関東支部長 児 玉 憲 明 (土木14回卒)

関東支部は現在東京都校友会、千葉県校友会、埼玉県校友会、長野県校友会、神奈川県校友会の5県の校友会を持ち1万6千人強の校友が、情報交換や母校との交流、懇親を深める等日々活発に活動しています。又2月22日には横浜ランドマークタワーのロイヤルパークホテルで神奈川県校友会設立総会が小野沢学部長をはじめ多くの

ご来賓をお迎えし盛大に開催されました事は、関東支部がこれから益々発展充実して行く証であり、今後の神奈川県校友会の活躍がおおいに期待される所です。神奈川県校友会設立については会長の井川文雄氏(建築13回卒)、副会長の末吉敏道氏(工化18回卒)、事務局長の小林啓一氏(土木20回卒)、ほか多くの校友に多大のご努力を頂きこの紙面をお借りし感謝申し上げます。

(日本施工管理(株))

年間活動記録

日時	行 事 名	開 催 場 所	出席者数
3/25	卒業式及び関東支部連絡会	日本大学経済学部	21名
4/13	千葉県校友会総会	ホテルサンガーデン千葉	43名
5/22	埼玉県校友会連絡会議	浦和文化亭	11名
7/19	神奈川県校友会設立準備会	横浜スカイビル	10名
8/9	長野県校友会連絡会議	ホテル花月	9名
8/24	工科系校友会支部長会議	理工学部	
8/30	神奈川県校友会設立準備会	横浜スカイビル	15名
10/25	東京都校友会総会、埼玉県校友会総会	ベルクラシック東京	53名
10/25	関東支部各県校友会役員連絡会	ベルクラシック東京	24名
11/8	2002日大フェア	東京全日空ホテル	22名
11/22	神奈川県校友会設立準備会	萬珍楼	23名
12/28	関東支部忘年会	赤坂酒菜茶屋	31名
12/28	長野県校友会忘年会	天庄屋	13名
2/22	関東支部神奈川県校友会設立総会	横浜ランドマークロイヤルパークホテル	118名

神奈川県校友会役員名簿

役 名	氏 名	専攻・卒業年次	役 名	氏 名	専攻・卒業年次
会 長	井 川 文 雄	建 築 13回	部会長	田 中 丸 人	土 木 26回
副会長	末 吉 敏 道	化 学 18回	部会長	高 橋 邦 治	建 築 28回
副会長	浅 利 城太郎	土 木 22回	部会長	石 田 晃 光	土 木 29回
副会長	鈴 木 昭 信	土 木 14回	部会長	内 田 栄 次	建 築 30回
副会長	生 方 健 一	建 築 15回	部会長	酒 井 秀 樹	土 木 31回
副会長	八 坂 幸 彦	土 木 17回	部会長	橘 田 文 人	建 築 31回
副会長	谷 口 哲 朗	化 学 18回	会 計	久保田 久美子	建 築 20回
副会長	本 田 貢	土 木 21回	副会計	廣 瀬 敬 治	機 械 34回
副会長	松 井 啓 司	建 築 21回	事務局長	小 林 啓 一	土 木 20回
副会長	内 山 貴	機 械 21回	事務局次長	杉 江 英 俊	土 木 21回
部会長	吉 行 忠	土 木 18回	事務局次長	清 水 由 雄	化 学 18回
部会長	辰 巳 英 雄	化 学 18回	事務局次長	縄 手 隆 男	土 木 20回
部会長	高 橋 健 一	土 木 20回	事務局次長	大 石 直 人	土 木 26回
部会長	池 田 昭 造	土 木 20回	事務局次長	早 川 辰 也	土 木 29回
部会長	川 副 英 樹	土 木 21回	事務局次長	三 枝 良 彦	土 木 31回
部会長	田 村 章 二	土 木 22回	監 事	土 橋 誠 一	土 木 13回
部会長	日 比 孝 令	土 木 23回	監 事	小 島 茂 満	建 築 24回

東海支部活動状況報告

東海支部事務局長 近 藤 直 幸 (土木28回卒)



本年度は、当支部にとって結成30年という記念すべき年となりました。

これもひとえに、結成当初より支部長を任われた平野卓氏(土3)と河野叶氏(土6)、浅田良孝氏(土16)を中心とした諸先輩方々による努力の賜物と感謝しております。東海支部の一員として、私も仲間に入れていただき大変光栄に存じております。

この場をお借りして、これまでご尽力されました諸先輩各位に心より御礼申し上げます。

この様な、結成30年の節目の年の支部総会を7月26日(金)に名古屋駅前の“ホテルキャスルプラザ”に於いて母校工学部より五郎丸英博教授(土木工学科)、本部より加藤木会長をお迎えして開催致しました。

はじめに、平野支部長の挨拶があり加藤木会長より校友会の、そして五郎丸教授より大学の近況等についてお話ししていただきました。

その後、支部長という大役を公私共にご多用の中、30年もの間ご尽力ご苦勞いただいた平野卓支部長を顧問に、川村智健氏(土15)を2代目支部長、松本純一氏(土15)と川口幸三氏(土19)の両氏を副支部長、他14名の役員改選を総会に提案し、満場一致で承認され決定致しました。

今回の総会は、結成30年記念ということもあり今までとは少し趣向を変えてと考え、多方面でご活躍の創作絵本作家村上康成氏(プラチスラパ世界絵本原画ビエンナーレ金牌等受賞)をお迎えして特別講演を実施致しました。

「アウトドアと絵本と」の題目で、エンジニアとは異分野のとても興味深くユーモアあふれる講演でした。

総会終了後、恒例の懇親会にご来賓の五郎丸教授、加

藤木会長そして特別講演をいただいた村上康成氏にもご臨席いただき開宴致しました。

会場には沢山の輪が出来、仕事の話しや孫の話し、釣りやアウトドア等多方面の話題で盛り上がり予定の時間もアットという間に過ぎてしまいました。

最後に、出席者一同肩を組み大きな一つの輪となって日本大学校歌や若きエンジニアの歌等大合唱で会を締め括りました。

今後も、より多くの同窓の方々に当支部の活動に参加していただき、この先20年、30年と長く活動していける支部となる様色々な行事等を行なっていく考えでありますので、ご意見ご希望等を事務局まで是非お寄せ下さい。

また、行事等へのご参加もお待ちしていますので宜しくお願い致します。

お気軽にご連絡いただきたいと存じます。

尚、当支部役員としてご活躍いただいた三宅徹明氏(土14)が病により、平成14年2月ご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

四国支部総会報告

四国支部長 北 岡 保 之 (工化14回卒)



校友の皆様方には益々御活躍のこと心よりお慶び申し上げます。

平成14年度総会、懇親会は若い方々の提案もあり、家族を含めて行うことになり、7月13日にロイヤルパーク高松で開催し、会員25名を含め48名の参加がありました。総会では事業報告、会計報告があり、支部活動の活性化など話合いました。

懇親会では、お忙しい中出席いただいた村田本部常任幹事より、大学での新たな研究施設の紹介などの近況報告があり、谷久（土8）先輩の乾杯の音頭で開宴となりました。過去の家族会でおなじみのS.W.J.O.のジャズの生演奏と大学の紹介ビデオも放映され、また恒例の会員の近況報告、かわいい子供さんを含めた家族の紹介もあり、例年になく大いに盛り上がりしました。最後に寮歌、校歌の大合唱で旧交を大いに温め、和やかなうちに散会となりました。

支部の会員数は約500名でエンジニアとして広い分野で活躍しています。

なお総会以外の活動は、月例会（一本会）を第1木曜日に高松市内町6-5「はんぶん」で18:30~20:30に自由参加で行なっています。ゴルフコンペは各県持回りで年1回予定しており、希望者だけに連絡していますので、必要な方はご一報下さい。

私たち校友は年齢の差こそあれ、青春時代に同じ景色を見て過ごした仲間として、会い集いたいと思っておりますので気軽に声をかけて下さい。（高松市土木部長）

九州支部総会報告

九州支部長 湯村 筑後（建築10回卒）

本年は日本大学工学部校友会九州支部（別名・アカシヤ会）の第二十二回目を迎え、福岡市中央区天神の「平和桜」（中華料理店）で開催いたしました。

会員への総会案内については、福岡県及びその近郊までの範囲で約400名にいたしましたが、今回の出席者は、前年よりも少なく二十五名程でした。まだ、まだ不況が長引いていることも影響しているのではと推測されます。

さて、本年度の総会へは本校校友会より加藤木会長がご出席いただきました。

総会は支部長挨拶に始まり、会計より、会計報告、事務局より年間報告等を行いましたが、本年度は昨年と同様にゴルフ、コンペ等の親睦会はやらなかったことにつ

いて、この不況の中とは言え、やはり親睦の活動は必要だとの意見も出ましたが、こういう状況の中だけに、むしろ少数でも校友会員としての「絆」を強くしていくべきだと思いました。

総会の後は、懇親会に移り、加藤木会長より、最近の郡山や工学部の活動状況等を聞かせて頂きました。

次に出席者の自己紹介等もあり、本年の一番若い人は、平成七年卒業生（二人）、約二時間余りの総会もあっという間でした。

最後にいつものとおり応援団員出身による「校歌斉唱」、次に地元博多で有名な「博多手一本」、「博多祝いめでた」をやり総会を締め、二次会へと向いました。

少人数とはいえ、総会から二次会まで、ゆっくりと歓談ができたと思います。



前年も紹介しましたが、当支部では、毎月一回、第三木曜日、午後六時三十分より、総会をやる同じビル（平和桜・三階）の「てんじん」にて任意による集まりをやっております。会費は三千円で約二時間程、人数は五〜八人ほどですが、各々の情報交換などをやっております。

これからも若い人たちが、数多く参加できるよう、考えていきたいと思いますが、どうか、九州方面への転勤の方の参加をお待ちしています。

山岳部“北桜会”総会案内

開催月日…平成15年6月7日(土)

開催会場…神奈川県湯河原町宮上227

【みやかみ荘】

北桜会事務局長／相原 茂（土木24回卒）

連絡先（勤務先）

次世代工学技術研究センター ～世界に向けて研究成果を発信～

第一プロジェクトリーダー 電気電子工学科 教授 尾 股 定 夫 (電気20回卒)



まずは写真を見て頂きたい。
そうです…これは外科手術室で
す。どうして工学部で外科手
術？工学部に病院？…と思われ

る方々もたくさんおられるでしょうが、工学部にこのた
び創設された次世代工学技術研究センター内で行われて
いる外科手術支援装置の開発を行うための動物実験室で
ある。

この次世代工学技術研究センターは、工学部のハイテ
クリサーチセンター事業構想が、支部科学省補助事業
「私立大学学術研究高度化推進事業」として平成13年度
4月に採択され、研究がスタートした。平成14年度3月
に次世代工学技術研究センターが完成し、本格的な研究
活動を開始した。

欧米では、バイオとIT技術、ナノテクノロジーを融
合化した次世代型のコア技術を確立して、医学と工学と
の連携による次世代医療産業創出に向けて、強力な国家
プロジェクトが進行している。特に医療機器などの開発
については、古くから医学と工学の境界領域要素として
捉え、次々と新しい医療診断機器や治療装置が開発され
てきた。その結果、我が国の高齢化社会と高度医療の熱
望と共に、我が国の医療福祉機器の輸入量がここ数年急
増している。

残念ながら我が国では、医学と工学を連携した共同研
究システムが十分に構築されていないので、国内の医療
産業はここ十年停滞気味である。

そこで、工学部では機械、電気、物質化学、情報学科
など、それぞれの分野で生み出される研究成果を横断的
に融合化し、医学と工学が連携し易い環境として共同研
究施設の立ち上げを計画した。臓器移植手術まで可能な
最新の外科手術室、遺伝子工学や再生医学など、まさに
病院の施設を超える研究センターとして開設した。一般
に、このような施設は病院としては珍しいものではない
が、医療機器の開発に重点をおいた次世代工学技術研究
センターは我が国最初の医学と工学との連携を重視した
研究施設である。この為、各方面から注目され、今では



日本大学医学部や東大医学部など、我が国のみならず韓
国・延世大学やスタンフォード大学などから多数の共同
研究の申し入れがある。しかも、今では郡山市や福島県
の見学場所として取り上げられ、内外から見学者が絶え
ない。

この研究センターはRC造、地上3階建て、述べ床面
積1,715.15平方メートルで、主な研究テーマは2つのプ
ロジェクトからなっている。

(1)「次世代医療診断装置及び計測技術の開発」(リーダ
ー：尾股定夫(電気電子)、研究者18名(内海外研究者2
名：スタンフォード大学医学部、韓国・慶北大学医学部)
このプロジェクトにはX線CT、超音波診断装置、内視
鏡装置など外科手術や移植手術を行うための装置、遺伝
子解析装置など、医療機器を開発するための最新の装置
が据えられ、医療分野における新しい診断装置や検査技
術の開発を目指す。

(2)「構造制御設計法による機能性材料の研究開発」(リー
ダー：出村克宣教授(建築)、サブリーダー：西出利
一教授(物質化学)、研究者13名)このプロジェクトに
は、NMR、電界放射型走査型顕微鏡、高精度昇温脱離
ガス分析装置などが備えられ、メゾスコピック及びナノ
メーターオーダー構造制御による心機能性材料の創出を
目指すと共に、生体に優しい医療用材料の開発に取り組
んでいる。

施設の内容は、写真に示されるように従来の工学部で
は考えられないような研究を包含している。

このような研究施設は、我が国でも極めて珍しく、今

では福島県知的クラスター事業及び文部科学省の都市エリア事業として、医学と工学の連携による「ハプティック（触覚）技術を利用した次世代医療産業創出」の大型プロジェクト（2.5億円1年間：3年間継続）が平成14年9月よりスタートし、このセンターは日本大学工学部が中心となって、会津大学、福島県立医科大学との共同研究で中核的な役割を担っている。このため、この研究センターを利用した研究成果が世界に向けて発信される日も近い。

ところで、この研究センターは大学院生や学生の教育

も担っている。特に、ここでは動物を利用した実験が主となるので、外科手術の手技、即ち解剖、縫合、注射の仕方、麻酔の処置法など外科手術に必要な全ての技術を、エンジニアである学生や大学院生に約1年間にわたって本学研究所教授の木村準先生より指導を頂いている。現在は、課外講座として1年生から大学院生まで約40名の学生が「外科手術と動物実験マニュアル講座」を受講しながら、医療工学の基礎を学び、更には動物の命の大切さや扱い方などを学んでいる。

若葉マーク

がんばり記

日々勉強の毎日

柴 田 徹（情報5回卒）

私は平成12年度に情報工学科を卒業し、現在はジェイアール東日本情報システムに勤めています。

入社後3ヵ月の研修を終え、配属された部署はシステム開発部でした。システム開発部といっても内容は様々あり、最初の配属先は通信設備管理プロジェクトというところでした。通信設備管理プロジェクトの対象とするシステムは、列車の運行に欠かせない信号や通信設備のメンテナンス情報の蓄積、過去の検査データを基にした今後の検査計画の作成、設置されている設備の管理などを行うシステムであり、日々の管理をする上で重要なシステムを担当することになりました。

配属された時期は新たに開発されたシステムをユーザーのもとに納品する準備を行う時期でした。システムの開発の最初からかかわるといった状態ではなかったために、システムの使用法どころか基本構想すらもわからない状況でユーザーのところへ納品に行くことになりました。納品といっても、実際の作業は新たなシステムを現行の端末にインストールする作業であり、ミスすれば即座に跳ね返ってくる作業でした。実際に作業を行った箇所は30箇所を超えたのですが、やはり作業にはミスがつき物であり、何度も失敗をしてしまいました。しかし、実際に苦労したのはインストールの失敗のリカバリではなく、ユーザーからのシステムに関する質問でした。インストールの失敗は作業をやり直せば対応できますが、ユ



ーザーの質問はシステムの深いところを聞いてくるために、知識のない自分としては答えられないものがほとんどでした。問い合わせに対し「わかりません」と答えるのは簡単なのですが、現地に会社の名前をつけて訪れている以上、ユーザーとしては一人前のシステムエンジニアとして見られるため、わからないことを聞かれるたびに先輩に電話をしユーザーの質問に1つ1つ答えていくというような対応をしていき、ユーザーの前では新入社員という甘えを出すことのできない状況で、さまざまな経験をつむことができました。その経験が今の自分の仕事に対する自信とすることができています。

入社後、2年が経過しようとしています、いまだに半人前であり、日々勉強の毎日です。

（株）ジェイアール東日本情報システム

平成14年度文部科学省学術フロンティア推進事業による 日本大学工学部「環境保全・共生共同研究センター」の建設



第一プロジェクトリーダー 土木工学科 教授 長 林 久 夫 (土木19回卒)

工学部では、学術フロンティア推進事業、研究課題名「中山間地及び地方都市における環境共生とそれを支える情報通信技術に関する研究」(研究代表:

日本大学工学部工学研究所所長 小野沢元久)が平成14年度文部科学省「私立大学学術高度化推進事業」に選定となり、平成15年3月の竣工を目指し標記センターの建設を進めています。

わが国の地方都市部では自然環境と人間環境の境界部において緩慢に進行する環境汚染などの種々の問題を抱えており、これらの環境を保全すると同時に安心して住み続けられる空間を実現することが求められています。本研究では持続的発展可能な「循環型環境共生社会の創生」を目標とし、自然と人間の環境保全と共生という視点にたって、土木・建築・機械・電気電子・物質化学・情報工学の研究者が学際領域の問題について継続的な共同研究を実施し、地方都市における環境保全のあり方を提示するとともにこれらの研究を通じて地球環境問題の解決に貢献するものです。

研究プロジェクトは【1】地域環境の評価と保全に関する研究と【2】環境共生のための支援、教育、公開及び危機管理を支える情報通信技術の研究の二つで構成しており、第一プロジェクトは自然環境、都市環境及び土木建築構造物の各々の評価と保全に関する研究を展開して中山間地から沿岸域に至る自然と人間の環境保全と共生に寄与するための研究、第二プロジェクトは環境保全のための計測・予測に関する研究と環境共生を支援する未来型情報システムに関する研究です。研究モデルとして福島県内の中山間地及び地方都市域を課題設定して研

究を展開しています。

研究期間は平成14年度からの5箇年間であり、総事業費は研究センターの建設費、施設・設備費及び研究費を含めて約12億4千万円である。研究センターは環境分析、環境計測、環境情報の3センターで構成しており、建物は4階建一部平屋建てで、建築延面積2,004.95㎡、1階には、水環境シミュレーション実験室、走行荷重実験室、土木建築構造物シミュレーション実験室が、2階には、エネルギーハイブリッド研究室、気象データ解析室、コンピュータールーム、プレゼンテーションルームが、3階には、画像計測実験室、環境予測シミュレーション室、精密微細加工実験室、遠隔計測制御センサー・センサス実験室が、4階には、ICP質量分析装置、ICP発光分光分析装置、液体クロマトグラフ質量分析装置、エネルギー分散蛍光X線装置等による分析研究室が、また、屋外には風力発電装置が設置されている。

プロジェクトには工学部36名と日本大学関係学部の協力に加え他大学及び海外研究者30名、総勢66名による研究スタッフが参加しており、平成19年3月には最終報告を提出します。



校 友 短 信

土 木 工 学 科

◆秦 裕 (6回卒、郡山市)

10月24日、福岡集合で同期会“アカシヤ工友会”を開催、25名が参加しました。卒業して46年、皆の頗る元気で活躍の様子を目にして元気が出て参りました。今回の“アカシヤ工友会”は、2年後に岐阜白川郷にて開催を予定しております。(H. 14. 12. 6受)

◆北能喜二郎 (10回卒、秋田市)

卒業して40年、卒業と同時に勤めた会社今年退社、入社当時は現場勤務で決まった休日は無し、今は週休二日で今昔の感。郡山には30年程前2年間住みました。訪ねる会、前回10年前より大勢の友と会えることを楽しみにしております。(H. 14. 9. 20受)

◆室井正義 (10回卒、仙台市)

本年3月に40年間勤務した会社を定年退社し、人生最大の休暇を楽しんでおります。卒業後40年を振り返ると感慨深いものがあり、久方ぶりに母校を訪ね友人に会える事を考えると胸が高鳴る思いがします。(H. 14. 8. 26受)

◆岡石隆文 (20回卒、五洋建設㈱、北九州市)

建設業界は不況ですので、皆様と会い元気を取り戻そうと思いましたが非常に残念です。日程が合わず、母校を訪ねる会は欠席いたします。(H. 14. 9. 26受)

◆戸田泰明 (20回卒、県立蒲沢工業高校、山梨県鰺沢町)

甲府市で、10月12～14日に関東フィギアスケート選手権大会があり競技審査委員になっているため、大変残念ですが、母校を訪ねる会に参加できません。(H. 14. 9. 19受)

◆新倉 勉 (20回卒、浜須賀園、茅ヶ崎市)

東北新幹線の黒磯工区完了後、熊谷組を退社し湘南で小さな造園土木業を営んでおります。卒業40年目には、是非出席させていただきます。工学部で学びさせていただいた事に感謝しています。(H. 14. 9. 26受)

◆古屋光一 (20回卒、鹿島建設㈱、長野県穂高町)

卒業以来一度も母校を訪ねておらず残念に思っています。転勤族ですが、何処へ行っても先輩・後輩に助けられています。日大郡山栄えあれ!! (H. 14. 9. 24受)

◆阿部 誠 (30回卒、岩手町役場、岩手県岩手町)

新幹線、盛岡～八戸開業(12/1)に併せての整備が忙しいため「母校を訪ねる会」は欠席させていただきます。(H. 14. 9. 30受)

◆阿南正典 (30回卒、大日本土木㈱、入間市)

現在バプアニューギニア国でODAの仕事に従事しており、母校を訪ねる会に参加できなくて大変残念です。(H. 14. 9. 11受)

◆松田逸男 (30回卒、呉羽化学工業㈱、いわき市)

呉羽化学に出向して2年、現在人工芝(グラウンドカバー)部門におります。母校を訪ねる会は、都合があり出席できません。(H. 14. 9. 17受)

建 築 学 科

◆牛崎英次郎 (10回卒、牛崎建築設計事務所、千葉市)

現在、インドネシアのスラバヤにて赴任中のため母校を訪ねる会に出席することは無理です。皆様のご健勝を祈念しご盛會を祈ります。(H. 14. 9. 9受)

◆菅原松雄 (10回卒、スガワラ建築設計事務所、鶴岡市)

10年前母校を訪ねたとき余りにも立派になっていて、もう一度学生生活をしてみたいと思いました。楽しみにしていたのですが、ロータリークラブ15周年の会合と重なり欠席いたします。(H. 14. 9. 18受)

◆高坂裕幸 (10回卒、相模原市)

訪ねる会、他学科友人と逢うのが又楽しみです。当日良い天気であるように。(H. 14. 9. 11受)

◆堀越義章 (10回卒、早稲田大学、江東区)

「母校を訪ねる会」開催を同じくして、中国東北部ハルビン・大連等の都市調査があり、出席はむづかしいのでお赦ください。(H. 14. 9. 18受)

◆高井 豊 (20回卒、清水建設㈱、唐津市)

「母校を訪ねる会」は、今日では恒例化となって盛況で喜ばしい事です。

本年は桜門建築会80周年で、10月26日の九州支区大会開催に約250名参加を目標に実行委員メンバーとして活動中のため、訪ねる会は不参加です。(H. 14. 9. 11受)

◆倉恒俊一 (20回卒、住まいコンサルタントクラツネ、鳥取県倉吉市)

10月13日は、当県で国民文化祭の開催初日です。文化祭運営の手伝いに行くことになっているので、訪ねる会に参加したいのですが残念です。

又、日大校友会鳥取支部の幹事長を今年から3年間務めますのでよろしく!(H. 14. 9. 5受)

◇行場義修 (30回卒、道立帯広工業高校、帯広市)

秋季国体(高知)のアーチェリー、北海道代表(少年男子)の最終合宿等あり監督のため、残念ながら母校を訪ねる会は欠席いたします。(H. 14. 9. 5受)

機 械 工 学 科

◇森 正則 (1回卒、小樽市)

先日、二本松に所用があり卒業以来初めて母校を訪ねました。学生時代に在った建造物は“エントツ”が未だ在り懐かしく……そして、構内を散策して参りました。(H. 14. 11. 28受)

◇畠田 康 (10回卒、福岡県志免町)

10年間の海外勤務を経て、1999年に帰国しました。帰国以来遊々の日々です。(H. 14. 9. 11受)

◇桑原重信 (10回卒、熊本県高田市場、豊後高田市)

2年前、卒業以来初めて母校を訪ねました。あまりの変わり様に竜宮城から帰ったような気分でした。郡山の町並みも変わってしまい、昔の面影はまったくありませんでした。訪ねる会は欠席させていただきます。(H. 14. 9. 7受)

◇田中信義 (20回卒、菱船エンジニアリング(株)、広島市)

今年6月の出張途中、約29年ぶりに郡山に立ち寄り母校を見学させて頂きました。食堂及び体育館とオドロキの連続でした。(H. 14. 9. 11受)

◇戸澤英昭 (20回卒、(株)本田技術研究所、長野県軽井沢町)

海外出張の予定があり、残念ですが母校を訪ねる会は欠席します。自動車部OB会で、旧友と連絡をとりあっています。(H. 14. 9. 7受)

◇中西 章 (20回卒、中西機械設計、京都市)

昨年、郡山でクラブ(少林寺拳法部)時の同窓会を行ないました。卒業以来の町にとってもなつかしく在学中の色々な思い出が頭をよぎりました。楽しかったです。(H. 14. 9. 4受)

◇今泉和弘 (30回卒、(株)ソーニーエナジーテック、福島県鏡石町)

昨年2月より、中国無錫に赴任しておりますので母校を訪ねる会は欠席致します。(H. 14. 9. 14受)

◇川田 洋 (30回卒、日本電装(株)、刈谷市)

今年3月より、デンソーインドネシア勤務となりジャカルタに在住しております。(H. 14. 9. 2受)

電 気 工 学 科

◇阿部正義 (10回卒、神奈川県寒川町)

早いもので卒業40年経過、あのアカシヤ林の通りを懐かしく思います。今は、健康第一と日々スポーツに励んでおります。(H. 14. 9. 25受)

◇前田 一 (10回卒、神戸市)

学生時代の下宿先へ、秋には行きますとお互い楽しみにしていたのですが所用と重なってしまい郡山に行けません。訪ねる会を欠席いたします。(H. 14. 9. 9受)

◇簗田恵山 (20回卒、仏教寺、魚津市)

私、病気がちながら現在の寺役仕事に精一杯精進しております。又、趣味にも多方面に活動しており、これも工学部での学生生活においての友人、先生方のおかげ様と深く感謝しております。(H. 14. 9. 12受)

◇内藤哲雄 (20回卒、内藤電気(株)、岐阜市)

訪ねる会のご案内をありがとうございました。出席したいのですが、当日所用があり、ご無礼いたします。私、現在日本大学校友会岐阜県支部の幹事長役をおおせつっております。2年毎に支部総会を開催しますので、ご出席希望の方おられましたら連絡をお願いいたします。(H. 14. 9. 7受)

◇宮野公夫 (28回卒、ウラシマ写真、秋田市)

新聞に工学部の桜並木の紹介記事が載っておりました。在学当時を懐かしく思うとともに、現在は一般開放されていることを知り母校が地域に密着した存在として皆に愛されていることに、大変嬉しくなりました。いつか機会がありましたら、訪れたいと思っております。(H. 14. 4. 13受)

◇大家充也 (30回、沖電気、相模原市)

現在、沖電気システムLSI(ARMマイクロコントローラ μ PLAT)の商品企画・商品開発を担当しています。訪ねる会、楽しみにしています。(H. 14. 9. 21受)

◇加藤秀一 (30回卒、鳥取中央郵便局、鳥取市)

いつの間にか20年もの歳月が過ぎてしまったのですねー郡山がもう少し近ければ是非出席したいのですが、福島空港もでき新幹線もあり便利にはなりましたが、少し遠すぎますので残念ですが訪ねる会は欠席します。(H. 14. 9. 24受)

◇瀧川 守 (30回卒、NECテレネットワークス(株)、横浜市)

現在、無線システムの構築に携わっており通信市場の厳しき折、不況の波を直接受けリストラを経験しましたが、何とか頑張っております。(H. 14. 9. 18受)

◇佃 圭一 (30回卒、(株)ビジュアルコム、川崎市)

平成13年8月、友人とシステム設計・プログラム設計の会社を興しました。おかげ様で順調です。母校を訪ねる会は欠席しますが、ご盛會を祈ってます。(H. 14. 9. 5受)

◇後藤隆行 (31回卒、日立マクセル㈱、守谷市)

昨年7月、テロの前にアメリカニュージャージー州から3年半の赴任期間を経て帰国しました。(H. 14. 5. 21受)

◇林 垂代 (37回卒、太陽誘電㈱、マレーシア)

現在、サラワクのクチン市にて太陽誘電に勤務しております。(H. 14. 6. 19受)

工業化学科

◇佐藤計廣 (20回卒、日本クエーカーケミカル、木更津市)

勤続30年となりました。仕事で都合がつかず、残念ですが母校を訪ねる会を欠席します。(H. 14. 10. 1受)

◇鹿野雅史 (29回卒、㈱イワキポンプ、郡山市)

定期異動により、三春工場に転任となり埼玉から福島に転勤いたしました。

家族も共に郡山に移りました。(H. 14. 5. 21受)

◇加藤雅史 (30回卒、㈱エービー、郡山市)

只今上海勤務のため、母校を訪ねる会は申し訳ありませんが欠席致します。(H. 14. 9. 21受)

◇木村尚弘 (30回卒、木村織物工場、桐生市)

人・工学部・懐かしい思い出、楽しみにしています。訪ねる会に出席致します。(H. 14. 9. 4受)

編集委員会からのお願い

校友会事務局へのお便りや連絡などから、無断で掲載しました。限られた紙面のため、全文をご紹介できないものもありましたが、ご了承下さい。

メンターシステム開設のお知らせと積極的な参加のお願い



就職指導委員長
情報工学科 教授

藤 本 洋

近年、各大学が独自に培ってきた、就職活動のノウハウをインターネットを活用して、学生に提供するサービスの高度化が進んでいます。工学部でも、低学年の段階で将来の目標を決めさせて、目標を達成するための道しるべとなる情報を学生に提供する、キャリアアップ&スキルアップナビゲーションシステム(CS-Navi)を構築し、学生の就職活動を支援しています。

現在、仕事の間では、業種や業務の多様化・専門化が進んでおり、学生が自分に最もあった職業を選択することの難しさが増大しています。特に、学生の就業意識やキャリア観も変化してきており、無業者・フリータでもよいとする学生が増加しています。一方、企業は即戦力となる能力のある学生を求めており、就職活動において、学生の希望と企業の希望のマッチングを効率よく行える仕組みが重要となっています。

このような状況に対して的確に対応し、学生が自分の能力を発揮して活躍できる企業を選択できるようにするため、工学部は企業で活躍する卒業生がオンラインで学

生の相談相手になるメンターシステムを開設したいと考えています。メンター制度は、卒業生に自分の勤務先、連絡先、勤務先企業に関する情報、相談可能事項、企業でのインターンシップ(2週間~数ヵ月企業での実務体験)の実施可否などを大学に登録していただき、業界の状況や動向、仕事の内容、求められる能力など、学生のキャリア形成や就職先企業選択に関して相談にのっていただくものです。メンターの役割に付きまして詳細はCS-Navi(<http://csnavi.ao.ce.nihon-u.ac.jp/>)で紹介します。

何卒、校友の皆さんには、後輩たちのために、システム構築後にはメンターの登録をお願いしたいと思っています。また、メンターシステムの運用法やメンターシステムに対するご意見をいただきたいと思っています。校友の皆さんの積極的なご協力をお願いいたします。ご意見は以下までお送りください。

就職指導委員会副委員長 長 澤 幸 二
〒963-8642
郡山市田村町徳定字中河原1番
日本大学工学部 電気電子工学科 助教授
Tel: 024-956-8793 (研究室)
E-Mail: nagasawa@ee.ce.nihon-u.ac.jp

日本大学工学部校友会各位

平成15年3月1日
校友会会長 加藤 木 研

平成15年度 通常総会通知

本会会則第15条により、日本大学工学部校友会平成15年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙とは存じますが、先輩・後輩お互いにお誘い合わせの上、多数ご出席下さいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時 平成15年4月26日(土) 14時より
2. 場 所 日本大学工学部 50周年記念館(愛称:ハットNE)
3. 議 題 (1)平成14年度会務報告および決算報告
(2)平成15年度事業計画および予算審議
(3)その他
4. 懇親会 総会終了後、情報棟8階のレストランにおいて大学関係者を迎えて開催

以上

第23回 母校を訪ねる会

- 日 時 平成15年10月26日(日)
- 場 所 日本大学工学部 50周年記念館
(ハットNE)を予定
- 対 象 第1回卒業生(昭和28年3月卒業)
第11回卒業生(昭和38年3月卒業)
第21回卒業生(昭和48年3月卒業)
第31回卒業生(昭和58年3月卒業)

今回は上記年度の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、是非とも多数ご来校下さい。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や級友との再会に懐かしい一時をお過ごし下さい。



校友会報 第66号

- 発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
- 発 行 部 数 46,000部
- 発 行 日 平成15年3月1日
- 発行代表者 校友会会長 加藤 木 研
- 編集責任者 編集委員長 長澤 幸二